

製品名: MMP-12 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13977**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	MMP12
別名	MMP12; HME; Macrophage metalloelastase; MME; Macrophage elastase; ME; hME; Matrix metalloproteinase-12; MMP-12
遺伝子 ID	4321.0
SwissProt ID	P39900
免疫原	抗血清はヒト MMP-12 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 362-411

背景

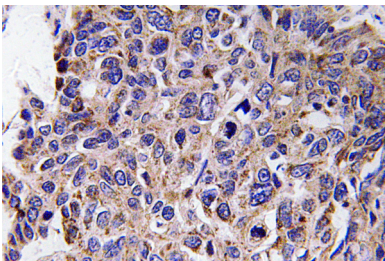
この遺伝子は、マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) のペプチダーゼ M10 ファミリーのメンバーをコードします。このファミ

リーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングなどの正常な生理学的プロセス、ならびに関節炎や転移などの疾患プロセスにおける細胞外マトリックスの分解に関与しています。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって成熟プロテアーゼを生成します。このプロテアーゼは、可溶性および不溶性のエラスチンを分解します。この遺伝子は動脈瘤形成に関与している可能性があり、この遺伝子の変異は肺機能および慢性閉塞性肺疾患（COPD）と関連しています。この遺伝子は、11番染色体上のMMP遺伝子クラスターの一部です。[RefSeq提供、2016年1月]、触媒活性: 可溶性および不溶性エラスチンの加水分解。インスリンB鎖の14-Ala-|-Leu-15および16-Tyr-|-Leu-17でも特異的な切断が生じる。、補因子:サブユニットあたり2個の亜鉛イオンと結合する。、補因子:サブユニットあたり4個のカルシウムイオンと結合する。、ドメイン:システインスイッチモチーフ中に存在する保存されたシステインは、触媒作用のある亜鉛イオンと結合し、酵素を阻害する。活性化ペプチドの放出時に亜鉛イオンからシステインが解離することで、酵素が活性化される。、機能:組織の損傷およびリモデリングに関与している可能性がある。顕著な弾性線維溶解活性を有する。P1'部位では大小さまざまなアミノ酸を受け入れることができるが、ロイシンを優先する。P1部位では芳香族または疎水性残基が好ましく、P3部位は小さな疎水性残基（好ましくはアラニン）で占められる。、誘導:リポ多糖類への曝露による。デキサメタゾンによって阻害されます。、類似性:ペプチダーゼM10Aファミリーに属します。、類似性:4つのヘモペキシン様ドメインを含みます。、組織特異性:肺胞マクロファージに存在しますが、末梢血単球には存在しません。、

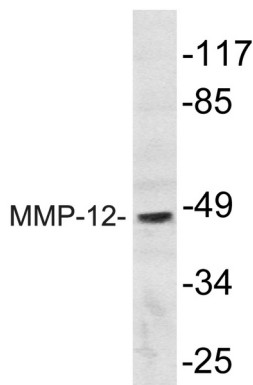
研究分野

血管新生

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌組織におけるMMP-12抗体の免疫組織化学分析。



MMP-12抗体を使用したHepG2細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。